

ブロックチェーン

今後

進捗報告

柴原壮大

u120019@st.pu-toyama.ac.jp

富山県立大学 工学部情報システム工学科

November 11, 2024

行ったこと

2/6

行ったこと

追加の PSO の数値実験
中間発表

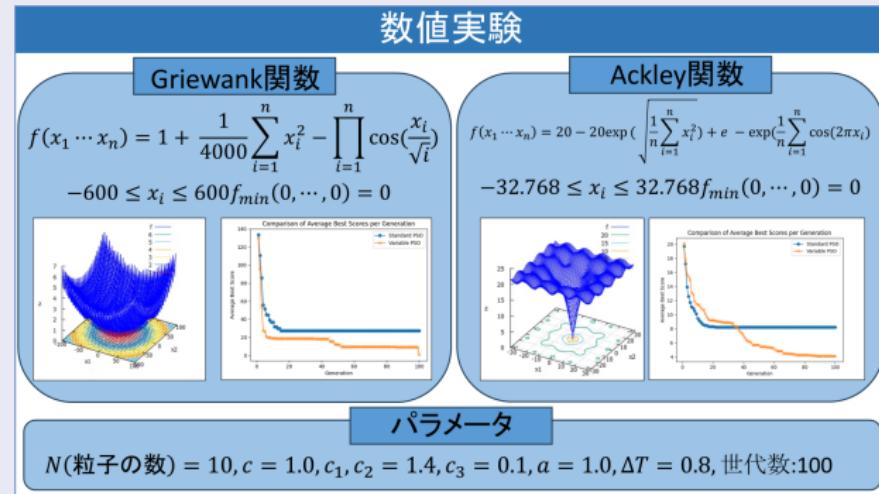
ブロックチェーン

今後

ハイブリッド PSO

画像

ブロックチェーン
今後



画像

多目的スケジューリング問題例

多目的スケジューリング問題

複数の目的を同時に最適化するスケジューリングの問題
例: 仕事の納期, コスト, リソース利用効率

フローチャート

問題定義

目的関数の設定
制約の定義

解法の選択

結果の評価

定式化例

目的関数

$$\min(f_1(x))$$

$$\min(f_2(x))$$

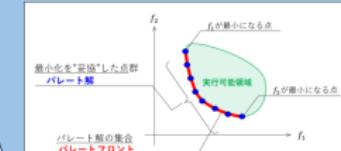
制約条件

$$p_i \leq x \leq q_i$$

$$f_1 + f_2(x) \geq S_{min}$$

パレート解

例: 制約条件が課された
目的関数 f_1, f_2 の場合



指摘された点

指摘された点

- ・数値実験の数をより増やしてみてはどうか
- ・多目的最適化問題に当てはめたときに、制約や複数の目的関数に対する勾配をどう扱うのか
- ・多目的の離散問題の数値実験を行った方がいい
- ・提案した手法がさまざまな最適化アルゴリズムの手法の中でどの位置にいるのかを示せた方が良い
- ・様々な制約を持った粒子を多分に用意して探索を行う方法もあるのではないか

今後

- ・多目的の場合の仕組みを考えて、数値実験で従来の方法との結果を比較する。
- ・そのために、多目的 PSO についての論文を調べる。
- ・本論執筆